

社會學史への寄與

Albion W. Small

本稿は The American Journal of Sociology, p. p. 385-418, Vol. XX VIII, Num. 4 Jan. 1923. に掲載せられたる Some Contributions to the History of Sociology の一節を高井良恭輔君が翻譯せるものである。斯學研究上有益なる參考資料であるから茲に掲載することを致した次第である。

(田崎生)

既に爲され仕事を知つて置く事は科學的行動には前以て必要な事である。アメリカの社會學者が此條件を貧弱な程度で満足して居たのは失敗と云はんより寧ろ誤謬であつた。一般に社會科學の此の缺陷を自覺したのは最近の成功であつた。社會學的自覺は一般的に悟られた中の特殊の局面である。第一節たる緒論の概略は社會學の前身たる社會科學の古い分類に於ける方法論的發達を描くにある。要するに、人類の經驗したる處を説明せんとする企圖は、神祕説から批評主義へと進み尙ほ其の批評主義は分化され特殊化さるるに到つた。續いてなされる表現は社會學に現れた右の進歩の階梯を示すのである。社會學に於ける進化の道標は主に獨乙の方法論者から選らばれて居る。と云ふのは本問題にて

學士會院の承認を得た米國の學者達に及ぼす影響が他の諸關係からのものよりも顯著であり且つ累加して居るからである。

The Sociological Review (一九一九年第十卷第一號) は、エス・エッチ・スウインニー氏のものした「社會學、其の成功と失敗」(By Mr. S. H. Swinny, "Sociology: Its Successes and Its Failure") を以て初まつて居る。大概の英人の爲す社會學說の中に米人が見出す處の島國的なものを割引しても、其の所論は啓蒙的暗示をなして居る茲に引用する事にしよう。

人類は太古より、社會問題即ち政治的經濟的問題即ち同じ團體内の諸階級間或ひは相異なつた方法で組織された團體間の關係に於ける諸問題に興味を持つて居た。併し斯かる諸

問題の存在と其の認識とが、必然的に其等の解決或ひは其等を科學的に取扱ふ可能性とを含んで居なかつたことは、昔時健康保持及び疾病治療の爲め喚起された非常の注意が生物學へ若しくは醫術の科學的應用へと導かなかつたことと同じである。より複雑な諸科學研究の爲めには、科學的精神の向上及びより複雑なものが坐はる處の單純な諸科學の科學的方則の確立と云ふ此の二つが必要なのである。

兎に角只だ直接的實際的の目的で企てられた諸研究は、抽象的科學の構成に取つて、其目的が破壊されて居る時よりも建設されて居る時には、都合の良い事ではない。天文學に於けるケツプラー機械學に於けるガリレオは、航海若しくは機械の特殊改良を考へはしなかつた。で、彼等が是等の實際的必要の關係にて、彼等の仕事制限及び調節をしなかつた事は尙更である。グアウインは彼れの例證の多くを牧畜者の實際から採つた。併し彼れの偉大な發見は家畜の品種改良運動の結果ではなかつた。十九世紀の三大社會學者たるコムト、スメンサー、及びル・プレー(一)は豫知せんが爲に智り而して用意せんこと云ふコムトの言葉通りに希求して、彼等は皆人類の未來に深甚の興味を持ち且つ主に社會生活の賢明な整齊の爲めの根據として社會的研究を尊重して居たにも拘はらず、彼等は社會構成及び進歩の方則發見と云ふ第一目的の爲めに、偉大な物理學者、化學者及び生物學者が研究の際に於ける精神と同様に、凡ての關係ある事實の沒利害的研究が必要であつたと云ふ事を認めて居た。社會的關係のものに

就て出来る丈の應用と云ふ事が彼等の發見の助力となつた譯ではない、勿社會學的行動を指揮し調整するものを發見すれば彼等は有効に違ひないのではあるが。

(一)此の評價の功績は後の過程に於て考察する事とする。此簡單な社會學史の敘述は必然に空乏な興味索然たる目錄とならざるが、併し思想的成功は社會的構成と發達の順序を追つての智識を作り上げた處にある事は充分に判ると思ふ。殊に吾々が社會學はより單純な諸科學の上に打立てられるので、前者は後者の發達に待つた事を考ふれば尙然りである。だが、社會學の現狀は合理的不合理的何れにせよ失望せしむるものの多い事は認められる。不滿が起るのは、社會學が吾々に充分な豫知なまず、夫れ故に行為の指導をなさぬこと、亦た一般原則に關して社會學者間に一致實のない事、及び公式化された斯る法則が具體的事實に應用され難い事に歸する。一觀察點からは、社會學は現實社會には無關係である。他の點からは、其れは、社會改革者若しくは社會學研究者の見解に準じて、零碎のもの、集合、經驗に基く方則、相關聯しない暗示、科學の名に價せぬものなのである。私は是等の悲觀的見解に挑戦せず、一般の科學的世界を通じてか若しくは是等の諸島嶼内の特殊諸事情にてか、兎に角從來社會學の發達を運らした原因は何かと云ふ事を考へ様と思ふのである。是等の障礙は六項挙げられる。

(一)科學の錯綜

(二)專攻の弊害

(三) 唯物主義

(四) 科學と其の實際的應用との差別の失敗

(五) 人間の利害及び野心感情及び偏見と本問題との密接な關係、そして

(六) 既に爲された事を忘却して居る結果大部分の者が初めより更に出直す覺悟を要する事。

是等の障礙の或るものは凡ての科學の中に種々の程度で内在して居る。或るものは社會學の特色のものである。或るものは社會學者の愚昧に因を發し、或るものは人間性の一般的缺陷に歸するものである。

最初の五障礙を概略的に取扱つて後、スウィンニー氏は續けて、

(六) 既に達成された仕事の忘却——社會學が此の特殊なものから傷つき且誰れでもが彼自身の新社會學を以て出發せんと欲する事は、一部分は少くとも、何が眞理かと云ふ事ではなく、彼等の計劃を有功に助ける者を發見せんとする多くの研究家の望みが先在して居た結果である。他の科學では、既に達成された仕事は出發點となつて居る。成程、それは絕對的な變更され難いものとしてではないが、從來受入れられたのみを確證し、無効とし若しくは制限を其性質上爲す處の新發見の土臺となるのである。改革者が先人の事業を拒否する時ですら、彼は少くとも其れを檢討する必要を感じ而して彼れの異議理由を附與せんと考へる。此方法で、凡ての初期の科學は發生したのである。此方法は初期の社會學者すら、採用

して居たのである。ペーコン派の方法に與みしてたヴィコーは、ホツアスの學說の注意深き合理的吟味をなして後其多くを否定した。コムトは十九世紀の事業の多くを受け入れた。只だモンテスキュー及びコンドルセーの特徵的研究の結果から獲られた諸結果を變更したのである。然るに今や吾々はコムト若くはスベンサーを讀んだ事もない學生達を見出すのである。其人達は恐らくル・ブレイの名を聞いた事は無いだらう。だが、社會學は丁度今發見された許りの耕されぬ處女地かの様に其れを研究に出掛ける人達がある。其の結果は往々滑稽なものがある。造詣深い米國の教授がヴォーに就てチカゴはナボリの町が進歩して居た丈は二百年前に(一)事實に於て達して居たさ、思はず繰り返した如き夫である。社會學は他の諸學科と同一線上に來されねばならぬのである。

(一) 此の可笑しな臆斷的事件を詳細に研究すれば興味がある。確にジョージ・イー・ビンセント博士は、大學の授業の際に、ピコーを二十五年前の社會學に於ける先驅者として、チカゴ大學で講義して居たのである。それが新奇であつた時に遡つて其の發言者の全連撃を記録せればならぬと云ふ拙らぬ事は獨乙人でも、夢想だにしなかつた事である。

本邦に於て最近三つの力強い危險がある。吾々には外國の大學教授團の如き大きな専門的團體がない。それで小さな事若しくは些細な發見につきもの、尊大さか又たは些末の事での饒舌と云ふもの無しで濟まして居る。併し他方に於

て時には科學的訓練なく且つ屢特殊の社會的改革の偏信家と云ふ人達に依り、此の領域の大部分が占領されて居るので困る。彼等が居なければ社會學的學會は存在し難いが、彼等と一緒に其の團體が社會學的たる事亦た困難である。上述の様な社會の如く、本邦は三つのD即ちDrink(飲酒)Drains(消費)及びDivorce(離婚)を以て占めらるゝに到る傾きがある。是は科學的智識の實際的應用の職分を否定する者ではない。

即ち例へばコムトヤル・プレーの研究の結果を市民委員會によつて應用した如く、若し發見と應用が各別に爲され而して其應用が眞の科學的智識を以てする應用であれば良いのである。英國では凡ての雰圍氣が産業革命から醸された慣習及び早くよりの政府と議會の妥協によつて没利害的科學の爲には都合が悪かつた。然かも其れにも拘はらず、過去の英國は科學に對し大なる審與をなした。幸にも對獨逸の戦は吾々の研究と科學的理想に新指針を與へた。吾々は敘述の特長ある獨乙風を最早尊敬しない。恐らく吾々は爾今より大なる見解と、そして佛國のより組織的思想に立返へるであらう。其處には私が列擧した如き一般的の者でないが他の危險が潜んで居る。それは本邦及び米國に於ても顯著であり獨乙(一)に於て殊に甚だしいのである。と云ふのは、凡ての綜合的思想を放擲し且つ科學を殊に社會科學を事實の蒐集及制限に止める可く斟酌する事である。是れば未熟の綜合を防ぐと云はれたけれども、綜合の妥當性は既知事實に綜合が一致する處に懸るので、新徵候が照らし出されて來た時には多少その

綜合は制限され若しくは拒否されるのである。出來る綜合をせずにした事實の蒐集は彼自身の集積したものから窒息させられる危險がある。獨乙の此の計畫の偉大な手本(その勢力が物的方面に及ぶのは有害だつたが)其れが人類の智能の上に其の勢力を失墜した事は吉兆なのである。

(一)今や發達さる可き進路は、吾々が國家を標準として方法論的傾向の分類をなす時、好印象を與へる様態頓する事であるを希望せざるを得ない。

人々は社會學部の困難と危險とは凌駕したが尙ほ困難と危險とを以て圍繞されて居る社會學の諸問題が此處にある。だが吾々は敢て進まう。そして注意と誠意と希望とを以て先人の事業を繼ぎ後の爲めに道の開拓をして置かう。

最近私は、社會學とは何であるか、其の價値如何と云ふ事を見出す最良法は歴史的に其れを辿る事だと云ふ結論に到達した。凡て其他の社會科學の最良研究法に就ても同意見である事件が大きくなる程、論ずる迄も無い事となる。

一九一七年迄は私は此の最後の信念の下に行動しなかつた。大學院に於て一般社會學の課程を取つたが毎年私自身の社會學の處理方法をなして居た。即ち社會學風の初歩のもの

であつた。

スウインニー氏の言葉たる「既に爲し遂げられた事の忘却」と云ふ事は、私の信念たる社會學史通覽は社會學上の聰明にして創造的仕事をなす爲めの準備の最上なものであると云ふ事を約言したものである。

數年前カーネギー氏は大學教授達の引退手當として一千萬弗を寄贈した。管理員會は基金を處理する様使命された。基金の指揮者は北米合衆國及び加奈陀の一定種類の學校の全教授達が老齡に達した時、彼等に其基金からの上り高から樂しい所得を支給するの案を立てる事にした。直ちに畫餅的計畫が見出された。管理員會は早速之れを承認した。其れが發表されるや懷疑、驚愕及び賛成が學界に捲起された。數年間資格適合の人は其の基金から毎月小切手を受けて幸福だつた。然るに同じく貧窮なるも資格不適合の人達は垂涎三千丈遂ひに怒つて終つた。それで理解の時が來た。即ち基金の指揮者は其の基金でやつて

る仕事は、其の基金からの所得丈ではやり切れぬ様に立到つたと考へた。それからカーネギー氏は元の基金に更に多額を加へた。然かも尙ほ其の基金の負擔は、收入を超過して居る。更に間もなくして處は變へられて素朴な英國に於て、基金は支拂能力のない事の聲明が管理者によつてなされた。何と云ふ事だこれぞスウインニー氏が社會學に關する問題の一つとして見出した事と全く同一事である事業の組織者が其の方面に關する既往の事を尋ねる事を怠つて居たのである。充分の経験なくしてやつた其の結果は貴重なる年月を徒勞に終り、尊い事業に不信用と嫌疑を招いたのである。若し彼等が爲したよりも充分に研究して居たなら、歐洲諸國に於て、殊に英國に於て亦た或る範圍迄なら米國に於て、或る方案は實行的でないとして排されたもの、別の方案は年代を繰つた保險附の實行的計畫足り得るものとして確認されたものと示す處の多くの實驗記録がある事を學んだに違ひな

い。その屈辱的失敗の後にカアネーギー基金は、第一段に於て着手すべきであつた事を遂行したのだが、夫れは今の事が働いたのである。其れに關係ある前の事業の全経験を研究し盡して、其の事業に關係ある凡ての發見的経験を意義あらしめる様に其の全計畫を改革したのであつた。

多くの理由にて、カアネーギーの挿話是一般の社會科學殊に社會學の顯著な缺陷を摘出する類推の標準となるかも知れない。今は只話を社會學の事として北米に於ける社會學に就ての重大な事丈に限るが、一世代前には或る二三の學者達は研究對照が種々の社會科學の中にまぎれ込んで行く様な研究方法には不満であつた。暫くして効果のないのに苛立ち彼等は自分自身の科學を創製せんと決心した彼等は古い拙らない社會科學(この誤謬を訂正する科學を斯界に提供せん事を廣告した。彼等は社會に關する凡てを説明し、將來の社會を疾速に完成する様導く諸原則と規則を包含

してゐる様な社會學を齎らす意氣込であつた。彼等は「社會學」の名前を冠したのであつた。數年後、歐洲の學者が北米の科學として社會學に注意し初めた時には、彼等は稱賛されたのだと考へた事を、私は隠立てせず認めめる。

(一)私は彼才の中の一人であつた。其の事を述べ以て謙讓に懺悔をなすのである。

圓熟した経験の光に照らすと、北米に於ける社會學史の初期は何だか物哀れなものにつきまどわれて居る。其の頭抜けたそして内發的の缺陷は既往に於て何が爲されたかと云ふ事を忘れて居た事であつた。吾々は達成されて居た多くの事を知らなかつたし又た或る事が達成されてたかどうかを見出す可き責任感を有しなかつた。斯く吾々は惘然にも素人の状態だつた。最近科學の見地からすれば、科學の第一歩は其の特殊範圍に於て如何なる事が既に成されて居たかを探求するにある。吾々が初等教育も此の原則に據つて居る。助力なき爲め何度も或る試みを空しく繰り返し其の

生命力の消耗し盡す事より救ふ可く、小供達は讀方書方、それから算術が教へられて居る。其れは先人が數世紀かゝつて成就したものである。即ち直ぐに意味の通ずる象徴にて彼等の思想を記録し發表する方法である。若し吾々が大工たらんと欲せば、自分丈で成らうとしない。又た新奇な道具を考案しやうともしない。吾々は既に發明された道具を如何に使ふかを學び初めるのだ出來るなら生涯中に先の大工達の慣習的道具を益巧みにする様に若しくは前に在つた道具に更に新道具を追加する事を研究するだらう。

抽象的若しくは歸納的科學に於て然りである。既に何が成されたかを必然的に見出す様になつて居る凡ての時間を省くのは全く莫大な徒勞を節するものである。教育を受けた人と受けない人の色別の最も手近い方法は、彼れが知つて居ると云ふ方面に於ける他の研究家達に關して質問し以て彼が其等の人達に就き知つてゐるか否かに探りを入れる事である。

American Journal of Sociology の二十六年間の編輯者としての私の經驗から、人が私は思索の爲めに時間を割愛する事が出來ると云ふ様に何物かを把持してゐるか否かを決する爲めに、殆んど常に信賴するに足る此の吟味法を構成したのである。彼れが論じて居る特殊問題に光明を投げた處の人達が仕上げた計畫に就て、彼は何を知つてゐるか。どんな事がなされて居たか、其の問題とする事に關して如何なる計畫と失敗が參考して記録されて居るかを尋ねた上で或る社會的關係を明瞭になし得る人達は減多に居ない。同一問題に就き先人の經驗には非常に無知の爲めに、社會問題の解説者として無謀なる事まるで愚昧に等しい人達は比較的多いのである。

自稱社會科學者が其れを了解してゐるにせよして居ないにせよ、夫れが少しでも科學の名に價する處の社會科學の指示的仕事は、人類の經驗の意義を説明し、未來に於て生命價値の生産高をより多くする爲めに、人類の經驗

が如何に指導さる可きかを尋ぬるにある。歴史家若しくは經濟學者、社會學者、心理學者として充分に準備するには、人類經驗の了解の爲めの凡ての盲滅法の探求、人類經驗に就ての學說の漸進的組成化された、凡て人類經驗の攻究の爲め工夫された分析用諸道具人類の經驗にて因果關係に就き到達した凡ての經驗に基く結論、人類經驗の解釋の爲めの凡ての絶滅したる又た殘存する假定及び現在實驗の吟味に合格し今後の研究上有用なりと學者から評價されて居る凡ての研究方法を人は知らねばならぬ。此の課程は、一般的方法では全體としての社會科學に就て、少し許り精密な方法では特殊的の社會學に就て、通曉せしめる手引としての企てがある。

要するに、吾々が測り得ぬ二千五百年以上の方に、人類の運命を知る方便の爲め莫大の努力が費された。是等の努力は人類の運命を思索する或る慣例的方法を齎らした。尊重すべき社會科學の最初の課程は是等の慣例的方法

法に接し其の初門を通過せねばならぬ。然らずんば吾々は先人が占めて居た位置の遙か後方より出發する事になる。昔の人達が踏査し記録を残して置たから爲さず済む其の諸經驗に没頭せねばならぬ事になる。尙ほ其の記録は吾々の計畫を豫想させるもので、其の記録が成功、失敗の何れを示すかにより、其の特殊のものに就て今後努力の必要あるか否かを兎に角吾々に示すのである。

そこで吾々の現在の仕事は、「社會學」で通つて居る社會科學に於ける特殊の方法と、部分的に又た綜合的に人類の運命を説明せんとする凡ての他の方法による社會科學との間の聯絡をつけるにある。大體に於て、歴史の黎明期より是等の經驗は最近の方法論者によつて決定された如く科學的方法に似るよりも寧ろ殆んど盲人の拳闘試合に似て居たのである。然かも近代の科學的方法は是等の同じ盲人の拳闘的事件から發生して來たものである。でそこに正當なものを悲觀せしむるに足る盲人

の拳闘みたいな似而非科學が殘存して居る。既に述べた如く、科學的のものと、そうでないものとの色別の及び信すべき科學を立證する最も有效な方法の一つは、發生の狀態を心に止めるにある。そうする事により、社會的諸關係に關する信據すべき智識の中に醸される認識が現はれたのであつた。此等の説述は第一段の論議としては進み過ぎたから吾々は第一の諸原則に立歸る事にする。

十九世紀初頭、歐洲の主なる學者の探つた思想は、生活の處理に就き與へられた主要なる經典は、人間の經驗であると云ふ事である。故に直ちに此の崇高な經典は出來る丈の熱心を以て研究されねばならぬ。人間經驗の熱病的踏査が行はれた、そして現在では探求の種々の型が、吾々の知つて居る「社會科學」の諸形態を取つた。即ちそれは主に歴史學、經濟學、政治科學下つては人種學、人類學、心理學、統計學及び社會學である。

所謂科學の各々に就き初歩の事實は、其の

熱心家は其の科學こそ人類經驗の祕密を解く爲めの一つの、否な充分な鍵であつたと常に考へて居た事である。其の上に各々は其の科學の偏愛心を發展した。而して其の科學こそ人間の經驗により教へ込まれた智識として廣告した。

人類の經驗から智識を得んとする種々の名前の社會科學者の斑氣と聖書解説者の諸派との比較をなす事は可能であるしまた教訓がある。無數の理論家は不調和な且つ反對的な智慧の賈物を教へるかの如くバイブルを壊はし寸斷した。同様にバイブルを信する者も、しない者も其れから章句を抽出し來り、其等のものを肯定的若しくは查定的信條の組織に作り更へた。それは始めの關係で了解する時はバイブルの主要な内容からは多少遠ざかつて居るのである。その様に、社會科學の色々の説明者も人類の經驗を破碎した。そして競争的に人類經驗の説明をなすに當り特に彼等に興味ある斷片と補片を以て建設したのであつた。

便宜上勝手に期日を定めて、一八七〇年の

である。(一)

轉換期に於ては、所謂「社會科學」は、斷片的

(一) "The Future of Sociology" by Small, アメリカ社會學
會報告十五(一九二〇)、一七四(殊に一八六頁)參照

な相關的でなく、その結果異種の人類經驗の
説明の状態を經過して居なかつたと云へるか
も知れぬ。大體之は事實である。只だ世界で

事實人間の經驗は一容量である。其れは全
體として讀了さるべきである。各部分は他の
各部分に對し意義があらねばならぬ。其れは
其の要素の中に分析されるだらうし又たされ

二三の人のみ所謂科學の初歩の且つ斷片的狀
態を知つて居る。吾々は社會科學の最も圓熟
の状態に進む運動の潮流に掉して居る。社會
學は其の運動の附隨事件である。社會學其自

ねばならぬ。其れは其の要素の組成によつて
のみ了解されるのである。

身は、全體としての社會科學に對する關係に
就き、社會科學の他の部門から永久的に異つ
たものではない。其等の各々は人類經驗の特
殊局面に其の注意を集中して居た。一時的且
つ偶然的に、社會學は社會科學の中の共同組
合の首唱者を務めた。それは僞而非社會科學
の烏合の衆から包含的社會科學へと一進展を
來たす爲めであつた。此の責任は社會科學の
他の部門よりも社會學にとつてが正當と云ふ
譯でないが、現状では社會學者が其の必要を
力説するのでより關係があると感ぜられるの

一八〇〇年以來常に、人類の經驗は科學の
源泉だと云ふ信條の擴大化と深刻化があつた
同時に其の問題は諸科學の鎔解の代りに科學
の包含的聯合によつて補はれた。其の過程に
於て、各々獨立的に見えた科學は一方ではよ
り科學的になり他方では獨立的でなくなつた
即ち眞の科學は實際に於て凡ての科學の上に
各科學の相互依屬を發達させた。

此の過程を、必然的に社會學の發達に結び
付いてる進化的諸局面のみに限る事にする。
其の直接の目的は、社會學は先の且つ其の當

時の科學的發達に何等關係なき二三の人達の承認によつて創造されたものでないことを示すにある。寧ろ社會學は全く一の包含的運動（それは社會學(二)の職分を相當に了解せんが爲めには一般に了解されねばならぬ事である）の中の科學的處置の最後の分派だつたのである。

(2) *Psychopædia Americana*, 「社會學」の項二〇八頁參照

所謂社會科學に關する平明な眞理は次の如くである。人類は世界に於て數世紀間の未知數であつた。人類は生れた。彼等は彼等自身を生かさんが爲め短い爭鬭期間中惱んだ。彼等は子孫を生んで死滅した。凡て此の小さな慄然な事が今日に到る迄の地球上に於ける人類の過去の大部分を占めたのである。夫れは人類の間に行はれた事に就き、必然的に生活持續の其日暮しの過程からの實地的思想以上のものを、誰れかをして回想せしむる前の事である。それから人種の諸分派に、吾々が神話時代と云ふ場面が起つた。即ちここでは各

種族若しくは民族に於ける二三の特殊の人達が世界に起つた事に就き空想を逞しうして居た。是等の人達は彼等の空想を心的綴織の中に織込んだ。其の綴織とは各種族若しくは民族の各員の頭腦に傳統となつて居た心的繪畫の中に一般に奇麗に暫時寫し出されて居たものである。是等の模様型例へばホーマー若しくはヴァージルの世界論若しくは世界起源の概念殊に創世紀より傳へられたブライ民族の世界起源に關する思想は、生計の爲の日常苦闘の場面外に明かに存在する全人類の事件に關する人々の好奇心の満足を來した。その満足がどの位繼續いたかは判らないのだが、否なそれは少くとも好奇心を宥めたのである。精神的製作が思索を支配した時代はコムトが人間の歴史を分類した「三時代」の初めの二つに當る。即ち最初は神話的、二番目が形而上學的である。コムトが探求して居た諸事實は一言を以てすれば、最近迄凡ての人々が文字通りの報告の代りに彼等の豫言者が現實の報

告として提供した想像的繪畫を受け入れて居た事である。其の上凡ての民族間の是等の空想繪畫の製作者は、現實人間に就て想像的取扱をなすに當り想像的超人間のもの關係として畫く傾きがあつた。此の場面はホーマーのトロイ攻城の叙述によつて説明される。其の結末は軍事的原因からの必然的の結果として描かすして、護神が出現して戰の形勢を根本的に轉倒さしたと書いて居る。夫れと同じ心的場面と過程は、イスラエル人が紅海を横ぎつたり又は彼等が與へられた不思議の食糧滿那の語でも説明される。

それから其の次の人間の經驗に關する思索の、もつと詭辯的狀態即ちコムトが形而上學的と呼んだ時代は、想像的超自然的人格を使用する事少なくして、普遍的原則の論理的任務をなした推論を多く用ひた。是等の最も親しみある標本は、純粹な合理的若しくは認識的方面に於て熟知されてる通りに、プラトリーやアリストートルの哲學系統のものである。同

様に典型的で尙ほもつと親密な見本は殊に倫理學上では、それより後のもつと精神的なへブライの豫言者の主要な思想である。(一)

(1) Eleye. Amer, 「社會學」の項、二〇六頁、第二欄(對照せよ)

人間の經驗に關する人々の思想の大抵は批評的でなかつたと私が云ふ時は、私は次の如き意味を傳へて居る。一般に人々は諸説を支持せんが爲め證據の信用若しくは資格を又た證據から引出された推定の究極を、詳密に研究せず人間經驗に關する諸説を受け入れるのに満足して居た。同じ命題は次の如き公式にされる。「通常人間は批評しないで瞞着されて居た」と。此の定則は無學の徒に對してのみならず、比較的に群衆指導を以て自任してた人達にもあて適まつて居たのである。

是等の命題は人間に就て思索する所謂社會科學に關する眞理を齎らすのである。アトラスが彼の双肩に世界を負ふと信じて居た二千年前のローマ住民と、千八百年に歐洲の諸大

學で歴史、文學、法律、神學、政治、經濟を講義して居た學者達の間には、只だ程度の差があるに過ぎない。彼等の繼承者が今日用ふる公言する處の標準によつて測つても詳細に涉つては非常の曲解と又た顯著な例外をなして居る處の十八世紀からの是等の勢力家達は通常其の淵源を敢て尋ねずに、見た目で其の傳統とするものを採つた人達だったのである。一八〇〇年に人間經驗の世界は無数の觀察者によつて踏査された。彼等の視野の中に現はれるものを見る爲めの彼等の能力と無能力とが、變幻極まりなき全範圍を覆つてしまつた。そして人間の經驗につき觀察された凡ては、概括的判斷をなす資格に於て對應的に同・でない無数の思想家及び哲學者によつて開陳されたものであつた。要するに吾々は一八〇〇年迄に社會科學として通つて來た傳統的集團を初心の、信賴する足らぬ、無責のものと特徴づけ度いのだ。それから八十年許りして比較的世間慣れた信賴するに足る、責

任ある社會科學を形成した運動が初まつた。社會學の分化は此の進化の從屬的事件であつた。是れは、米國の社會學者が通常固守した處の彼等の特殊性の思想ではなかつた。それで此の過程では、本來社會學と凡ての社會科學の解釋との肝要な關係を示す計畫である。

換言すれば、此の過程は「社會學」の名で知られて居る合衆國の運動は孤立的現象ではない其れは變態ではない。一人で存在し、人類の其の他の思想より獨立する無關係な或る物ではない。其れは眞反對の場合だと云へる事が示されねばならぬ。合衆國ではレスター・エフ・ウオードの系統を引く人達がなして居る思索は社會學として明白に知られた思考形式が分化する前に、哲學者達及び歴史家達及び政治學者達及び經濟學者達によつて爲されて居た思索の必然的進化に過ぎない。社會學的思索に概を有する何でもの諸芽萌は、既に社會學的運動が明確な姿を顯はす前に古い思考型中に現はされて居た。單に古い思考型に

満足して居た人達は、新思想の活動の未發達の諸芽萌が發達するに値して居た事を氣附かずに居たのだ。二三の人達が古い思考形式に不満足であつた。即ち彼等は舊思考形式は徹底的に進み得ず、深刻に透徹し得ず、現實に十分觸れ得ないと信じた。彼等は舊思考形式は事實に於て、もつと透徹的思索に端緒を生せしめたと饒舌らなかつた。彼等は初めに於ても、先人が見出した端緒に従つて居たが其の事は成就しなかつた。彼等は眞實に慣習的な人達が願なかつた端緒からやり通した。是等の社會學者達は傳統的の人達が止まつた點から、智的進化の過程で行はれた活動を繼續した丈だと云ふ事を吾々は今判つた。後者は前に考へて居たものゝ比較的靜止的反覆で満足して居たのである。

換言すれば、一八〇〇—一八八〇年の交、吾々が今や社會科學と呼ぶ各々のものは、幼年期から青年期の經過に似た變化を閲みして居た。社會學者達は社會學特殊性が圓熟せる

社會科學の一組織部分として存在するに到つた事實を、一般に洞察し得なかつた。事實吾々が此の關係を充分に自覺せずしては、吾々は吾々自身の分業も大規模な社會科學をも了解することは出来ない。それ故に、此のコースの主要な目的は一般社會科學の推移の主要部分として、不完全なものから科學的場面へと進んだ最近の全體の社會學的運動を示すにある。つまり、社會學は兩親なしに生れたのではなかつた。其の血統は人類の運命を了解せんとした人々の努力と等しい古さのものである。祖先に當る人達で彼等の子孫を認めた者は少なかつたが、其の直接の祖先は一八八〇年の青年的社會科學に少年的の其れを變へた學者達であつた。

社會學者達は先の社會科學者達の仕事の中の要素に倚つて彼等の推進力を増した。其の先人の諸要素は、思索してその心的要素を見出した其の人達から、比較的に輕視されて居た。社會學は斯くして「建築家が拒否した石」

の第二の事件である。其れは隅の要石にはならなかつた。少くとも其れは科學的構造に於ける主要な位置を占めたのであつた。

如何に吾々が述べるにせよ、記録に書かれてる眞理は、人間の思想の不變的軌道に就て當所もなく引かれた切線ではないのだ。社會學は人類の現實を處理する爲めに、未發達から完全發達へと進んだ人間の常態的思想である。社會學者等が既になして居た仕事は、人心が人間の經驗を説明する事を止めない以上（或る名目で若しくは顯著な名目なしでも）誰れかによつて早晚爲されねばならなかつたのだ。實に社會學者達の圈外にある「社會學」を主題とするものが、著名な博士達の論說の資本なのである。通俗の思想に就て云ふのではないが、從來の社會科學の中へ、凡ての社會科學の中に行はれて居た處の社會學的分析及び構成の過程を移入する演劇的光景が見られた其は特に最近二十年間に、彼等が社會學と共通な或物を有する事を、大概は侮蔑的に又た

時に惡口を以て否定して居た人達によつてなされて居た。

此の議論を制限するには、少くとも明瞭である運動の指標的なものに倚賴する事を要する。従つて次の分析は他の諸國から明證するよりも獨乙の事件を取扱ふ事にする。其れは純粹に獨乙のみの運動ではなかつた。併し社會科學の分類の急速な進歩をなした相互間の諸關係は何國よりも獨乙學問に於て最も明白である。従つて彼等は西部歐洲に於て共通な若しくは聚合した原因を伴つた處の進化の説明に最も役立つのである。

其の運動は、一八〇〇年及び現在に於て、其れに参加して居る人達の見地よりしない吾々自身の見地から記載する事にする。即ち吾々は、其の當時の活動家が少しも見出さず若しくは全部は判らなかつた其の意義を、及び確實に豫示しなかつた諸結果が生じ爲めに意味あるを思はしめた其の意義を明かに持出し而して其の運動を回顧する事にしやう。其の

運動に織り混せられて居る凡ての事が、吾々に對して價值が生ずるのは、其等の事件が社會學への一過程の複雑化をなしたと證明する時である。吾々は事件の實行的能因を心に止め且つ之を特殊の企ての下に發表する丈でなく、發生したものを公式化する事にしやう。吾々は斯くして、今や明瞭となつた處の成果の中何れ丈が、自覺的に其の人達の目的であつたか（其の人達の仕事を吾々は評價しなければならぬのだが）と云ふ問題を棄て、掛からう。論及せねばならぬ人達に關して、彼等は熟慮して何を爲さんとしたかとか、尙ほ彼等の仕事はどんなものだつたかと云ふ事に就ては餘り深入りせぬ事にしやう。

凡ての研究者と同じく、十九世紀の社會科學研究者達は、一方に於ては戰爭の時の若い志願兵の様であつた。彼等は深い衝動に感應し且つ多少或る不定の目的に刺戟されて左様に行動したのである。併し同時に全く具體的直接的目的を帯びて居たのである。一度彼等

が戦線にあるや、彼等の些細な特殊の仕事に没頭した。それで彼等の特殊運動が從屬して居る處に偉大な運動がある事を、遠隔の日程に彼等は知らなかつた。況して彼等個人の職分をなす事により、眞實に力づけて居た未知傾向に關して知る處少なかつたのは尙更である。此等の十九世紀の學者達は、其時でも後にでも豫想をなし得なかつたのである。吾々は彼等の觀察力の限界を少しく示す事にしやう。そして吾々は彼等の仕事が社會科學の方法として齎らした結果に就き、殊に吾々が社會學(一)と呼ぶ社會科學内の一分業に就き、出来る丈の表現をなそう。

(一) *Engve Amer. of Soc. cit. の處參照*

智識の一範圍に於て發見された一定事實が智識の他の範圍に於ける諸事實と或る關係を有する事を示すのは常に可能ではない。其の及び其の他の範圍の兩者の詳細なものゝ間に於ける關係の暴露された類似なくして、一智識界の一事實と、他の智識界の研究者に最初の

關係を生ずる諸過程との關係を、つけるのは容易の事ではない。例へば良貨の流通に及ばず悪貨の影響をグレシヤム法として知られた定義を受け入れて後に、一定社會に忍ぶ悪い道德律はより良きものに執つて代る傾があるとの道德的常識を主張するのは容易だつたのである。一八〇〇年以來物理学と諸社會科學間の互惠變更を云ふのではないが、諸社會科學の順列の智的全部門間に、概して諸思想の加速的滲潤があつた事は兎に角確かである。

一方此の過程は社會科學の凡ての分類上に普遍的に感應した。例へば社會科學の主要分類中一八〇〇年以來「歴史學派」と呼ばれたものを發達させた。此の學派の内外の人達が歴史的要因を正しく理解して居なくても、此の學派の出現は、一八〇〇年以來歴史家達（最初は歴史家でない人達によつてなされたのだが）何處に於ても強制してなした教訓の（即ち人間事實若しくは人間の地位を先人の結果關係として知るにあらずしては、そ

れを吾々は充分に理解し得ないと云ふ事の一部分的類化波及を立證した。他方、同様な影響は、最近數十年間に歴史家が、社會的研究の側面的型の發見に漸加的敬意を拂ふに到つた事實でも明かだ。謂はゞ即ち縦斷的の歴史的研究の思索丈には、吾々は充分に歴史的时代若しくは挿話を了解し得ないのだ。吾々は歴史的时代若しくは挿話を亦た人間諸行爲の全く同時代の組合せとして見ねばならぬ。故に戦争、外交、經濟、美術、教義何れにせよ人間諸關係の中或る選ばれた系列の歴史としてのみ推薦狀を求めらるなら其の歴史型は評判は悪いのだ。

更に一方豫想して、凡ゆる科學は、殊に吾々に興味ある社會科學は、稍や勝手に堺された「諸領分」に關する優越的智識でなくなつて其れは第一に「諸問題」取扱ひの技術となつた人間に關する諸問題は諸技術の使用によつて順々に研究されるものである。その諸技術とは漸減的傾向ある領分的方法内に生じ且つ支

配した處の智的各部门によつて高度の能率あるものに成されたものであつた。けれども、今日諸問題の研究者は、彼が邂逅した問題を處理する爲めに役立つた各自の研究方法を使用するのは正しいと主張する。換言すれば、今日社會科學の方法は抽象的方法に止まらずして相關的方法には入つて居る。今や「社會科學の主要分類の最後のもの即ち社會學として知られて居る處のものに、該方法の特別的應用の時となつた。上に指摘した様に、初期の社會學者達は、一獨立祭祀法の高僧だき彼等自身を公示したので、彼等と同時代の人達やまた彼等の智識の系統を引く人達を惑はした。同時に凡て他の科學的諸祭祀法は何時かは其の獨立的祭祀法に對し從屬してゐる事を認めねばならぬと主張した。吾々は特殊なものを列記する必要はない。其の特殊なもの、中での此の心の状態は、十八世紀の領分主義のみならず又た本篇序論の初めに説いた古代神話主義の遺風だつたのだ。吾々は凡ての社會學者

が今でも此の初期誤謬の羈絆より全然解放され切つてたかを尋ねるに及ばぬ。現在吾々の目的とする中心の問題は、社會學は元來社會科學中の技術の特殊化されたものだ云ふ事である。其の社會科學の爲めに、古い社會諸科學は諸問題を發見し且つ原始的諸方法を作り尙ほ試験的諸過程を試みて居たのであつた其の時は、科學の諸部門内の人達が新分業に對する需要を創造して居た事を自覺する餘程以前の事であるし、又たもつと慣例的な同僚達が眞面目にやつて居た分業に對して新參者が生じた時よりも餘程前の事である。社會學に關し、此點に於て、佛のコムト、獨のシェツフエレエ、及び英のハーバート・スペンサー達以來、社會學の名目で組織的思想家達が處理した處の抽象的に決定された手順でなく文字通りの仕事を吾々に了解せしめよ。此の社會學とは、人間の諸事實を穿鑿するに力を與へるものとしてより外考へられぬもの即ち進歩させられた能力、實行された豫備試験古

い諸社會科學の下に丁稚奉公してた間に作られた粗末な諸道具なのである。

社會學は一般に描かれて居る様な彗星即ち何處からも來ず何處へも飛ばない空間内の一天體ではない。社會學は一八〇〇年後間もなくして起つた處の人間生活に對する吾々の概念の客觀性を求めんとする需要に、應答した各種主要なものゝ一つである。實質的に及び或る場合には殆んど文字通りに、社會學者達は「歴史家、法律家、經濟學者及び思想家が提議した處の人間の諸關係の手掛りの方向に早く進み行く事に依つて、又た別の方法では彼等の諸元素に分析し切らなかつた處の人間諸關係の詳説すべき場所に吾々がある限り此等の手掛りを固執的に使用する事に依つて、人間神祕に就き正確な智識に到達する事を吾々は成就し得る」と云つた。或點に於ては、分光器の使用が化學に對する如く、又は血液分析が生理學に於けるが如くに、社會學は社會科學の古い分類に對する關係にある。即ち、其

れは方法に關する或る技術の増加である。其の方法により、他の技術で部分的に研究されて居た現象が、尙ほ更らに研究されるかも知れないのである。是れは問題が表示されて居た方法とは明確に背反する。だが通常は社會學者から表示されて居る。

折衷的精神の或る經濟學者は時々、經濟學は「彼等があるがまゝのもの」を取扱ひ社會學は社會學者達が考へて彼等が「あらねばならぬ」ものを取扱ふと、云ふ初期經濟學者の整然たる想像を公に繰り返へす事によつて、社會學者の失笑を禁せざらしめて居る。それは「市場」として考へられ又た假定によつて「經濟人」の完成があるかの如く臆斷して居る處の人工的に抽象し推定して居る或る現象の解釋よりも、一般に人類集團の形式及び行動は「彼等があるがまゝのもの」として劣るかの如くに取扱つて居るからだ。亦た、それは、勞働組合員若しくは被傭人組合員の精神的内容及び社會的態度は、勞資需給の統計よりも「彼

等があるがまゝのもの」として劣るかの如くに取扱つてゐるからなんだ。

實際へロドトスからレーニン及びトロツキに到る迄、支配する爲めに智識を用ひると云ふ、即ち自稱智識家が考へる様に、物事があらねばならぬ諸事實を實現せん爲めに、物事のあるがまゝの事實を知ると云ふ、その形式と力を含んだ慾求が其の智識要求者の心中に現はれなかつた社會事實を了解してゐる様な風をしなかつた。一方に於ては歴史家、政治家、經濟學者、他方に於ては社會學者間の相違は主に經濟學者が引いた劈裂線に沿つては居ない。議論を簡單にする爲めに、社會諸事實が在る如き事實から、彼等が在る可き事實に變性する期間及び程度に關する範圍に就き、社會學者は傳統的技術推行家よりも平均して確信があつた事を認めやう。だとして、社會科學に於ける方法發達の一面たる社會學の本質的意義は、古い社會的諸技術が意識的に又は無意識的に其の必要に遡つて居た處の

研究法を社會學が追求した事だ、と云ふのは眞理である。併し其の爲めに古い技術は裝置も人員も委託をも給與しは爲なかつた。

社會科學に於ける妨害的正統派から彼等の獨立を明白にして、社會學者達は、既に他の科學者達に依つて爲されたが、併し輕視された諸發見をやり通そうとて行動した。若しくは彼等は先人の諸發見を最初は一般社會學として、後には社會心理としての一つのプログラムの發展の爲めの起點となした。人々は從來の諸社會科學のテントを出て放浪者たらねばならなかつた。又た彼等は社會學者として學界の採用によつて正統なものとなるの機會を持たねばならなかつた。それは全一體としての社會科學が其の次の進化の完成期に入らねばならなかつたからだ。凡ての社會科學の改造は今日では各々の社會科學者達が其れを自覺してゐるか否かの何れにせよ、行はれて居る。改造の基調は多少陽はに次の事を認識してゐる事を是認して居る。即ち社會科學が社會

行爲の心的及び物的先件及び相伴物に就き相當の智識を以て其の基礎を構成する迄はそれは淺薄ならんと云ふ事である。社會學及び心理學は社會科學の一家族員である夫等は如上の基礎工事の爲めに直接的に彼等の注意を集中さして居る。

吾々が諸種の理解の中でも其れを創生的に即ち其の發生と進化に就て了解するにあらざれば、人間に關する如何なる事も充分に理解し得ぬのである。社會的解釋の現實諸問題も此の方則の除外例ではない。現在の思想の爲めに道を用意した處の先件に就て聰明がなければ今日の思想に關して充分に知悉する事は出來ぬ。故に一八八〇年以來或る成就したものの、即ち第一に歴史家の、第二に經濟學者の第三に政治學者の要領は、今研究せんとするのだが、それは社會學を育んだと證明したのである。

けれども、此の踏査の限界は、尙ほ更らに詳細に決定されねばならぬ。其の計畫は確か

に全社會科學史の目論見を企てたものでなく又た社會科學の一部門の目論見書又は社會學(二)のそれでもない。其の試みは、歴史家、經濟學者、政治學者達にとつて、彼等の部門の最も顯著な諸成就物たる先の歴史家、經濟學者、政治學者達の諸成就物を示す様にすらされない。其の目的を、歴史家、政治學者、經濟學者達のなす仕事の全體又は其の主要部分の中に、若しくは或る部分即ち社會學者達の圓熟した仕事の順序的相關の中に見出すのではない。左様なものはそこにはないのだ。

(1) Mevz, History of European Thought, 四册参照

反對に吾々は其のプログラムを示す吾々の先の方法を轉倒し而して其れを此の方法で叙述する。社會學の一般的觀念が初期社會學の各部門の種々のものによつて凡て達せられて居たから、社會學は社會科學の分離部門として存在するの權限なしとの命題を若し吾々が支持せんとして居たなら、吾々の目的に役立つ可き處の歴史家、經濟學者及び政治學者達

の發見したものを目立たして提出するだらう。吾々は夫等の主要思想が古い型の社會科學の中に起つた處の其の周圍の中に夫等の主要思想の或るものを回想するだらう。彼等に割當てられて居た處の又は彼等が古い社會科學の中で働いた處の重要な程度に就き、吾々は陳述しやうとは企てないだらう。社會學に對する基調的觀念として、其等の諸思想が相互關係に於て値した通りに吾々は寧ろ其等を強調しやう。

尙ほ吾々は、堅實な演繹法の重要な若しくは然らざる前提が其の結論を包含して居たと云ふ意味に於て、社會科學の初期形態中に後の社會學を豫期せしめるものが有つたから、それは社會學を包含して居たとの立證を企てないだらう。眞實は寧ろ次の如くである。即ち一八〇〇年以來は加速的強度を以て科學者達の間に行はれて居た實體的への趨勢だったので斯界は論理的よりも實際的と云ふ方が盛んであつた。例へばデアウインは十九世紀初

頭の歴史的精神から論理的推定だつたと主張するのは、二十世紀の社會學がデアウインズムからの論理的推定であるとの主張同様、誤謬であらう。吾々がこの場合に主張せんとすることは次の如くである。即ち第一に、吾々は歴史家達が發達させた現世の繼續に關する一般的觀念の豊富になつて居ない世界に、デアウインズムが現はれる事を想像し得ない。然かも歴史家達はデアウインたらず又た彼を産出し得ない。同様に第二に、有機的進化の基本的觀念が親しいものとなつて居ない世界に、一般社會學及び社會心理學が現はれる事を想像し得ない。然かも是等の有機的進化の基本的觀念は社會學たり得ず又た社會學を作る事も出来ない。同時に、社會科學の諸部門は是等の類推が意味するよりも意味がより密接になつて纏れ合つて居た。従つてそこに各自の發生及び全體の發生の間の大切な關係があつた事は眞實である。此の點に於て、吾々は其の眞相の解明を爲すかも知れない。其の

事實からの派生的今少し、順を追ひ定義的に陳述する事にする。

近年科學上の問題は百貨店に於ける品物の如く取揃へてあると云ふ風な、先に行はれてた見解は陳腐になつた。否な少くとも退化して居る。科學の問題は今や材料の塊として見られるのでなく諸過程(一)の中に包含されて居る要素間の關係問題として見られる。吾々が社會學に於て「過程」なる語を用ひる時は、殊に吾々が人間の運命は一過程である若しくは諸過程中の一過程だと云ふ時は、人類集團の各員間に於て、人間は諸勢力に關し能働、受働兩方の傳承者であつて、人間の運命は其の諸勢力の絶えざる交替を組立て、居ると云ふ事を單に意味するのだ是等の諸勢力は如何なるもので、如何に多いか、彼等が相互間に反動する方法組織的勢力中に顯著でなかつた反動からの結果如何——と云ふ様な疑問は社會學の仕事として宛行はれる。吾々の現在の見地からは、人間現象の理解と制御は、所謂社

會科學即ち各々は自身完全體として遇し、人間關係の抽象的方面を取扱つて居る處の方面からは駄目である。是れは社會學以外の社會科學者の注意を引く物に就てと同様、特に社會學者達に頼る人間過程の方面に就ても眞理である。反對に、人間の諸關係に就き發見し得べき凡ての方面は、それは共通問題の關聯的諸要素を分析し評價する爲めに諸技術が使用されるが如く、各々の及び凡ての技術の使用によつて、全體の公示の中に結合されねばならぬのである。

(一) Ross の著 *Foundations of Sociology* は科學的社會的範疇として「過程」と云ふ言葉に力を注いだもの、中英語で物された最初のものであつた。(九十一頁及各所參照) Small 著、二ヶ月前出版された *General Sociology* は「社會的過程」の範疇に於ける一論說として正當に記載されて居るだらう。(一頁及び隨所參照) ラツツエンホーファは兩者に先んじて居た。而して「社會的過程」の語は多くの人達により半分無自覺なそして不完全な仕方を用ひられて居た。

現在に到る迄流行して居た社會科學の一概

念は最早残り續け得ない。二三の聲明が其の概念の直接拒否の爲めなされた。併し一世代前には普遍的だつた社會科學の諸見解を、現在では十八世紀の自然科學の如く古風なものとして見えしめる變化が、吾々の全體的思索態度の中に行はれて居た。一つの根本的事項に關し、社會學者達は哲理的に思索してた凡ての初期型の社會科學者達に共通だつた。一概念を以て先づ起つた。是等初期思索家達の間には各自の「諸科學」を主張する強度の拮抗があつた。彼等自身を社會學者と呼んで居た人達が社會科學者としての承認を要求し出した時、殊に十九世紀の最終十年間に其の要求の後に、諸大學から認められ出した時には、古い社會科學者達は此等の社會學的成金に對する共同的輕蔑を爲すために、古くからの競争相手を殆んど忘れた。社會學者達としての功罪からは一切離れて、社會科學に就ての彼等の思想は、或る意味に於て歴史家、經濟學者、政治學者諸家の夫れど、根本的に同一で

あつた。各階級は人間生活に關し、知るの價値ある物の完全な叙述をなす事が、目的的運命だど其の特殊の「科學」に就て思索した。特に社會科學と云ふ「彼等自身の型」によつて現はしたものととして、即ち過去及び現在の人間經驗に於て眞實に肝要であつたものを整理したものととして、彼等は社會科學の事を思考した。

此の態度は一部分比論によつて表はされるかも知れぬ。設計家が國民の爲めに官廳の建築を計畫したと假定せよ。彼れが各々の材料を即ち石材、金屬品、材木、織物、塗料、鐵器類其他の建築必要品を註文したと假定せよ。註文した諸材料は敷地に發送されてしまひ而してその後設計家が造營せんとする計畫及び明細書の寫しをも殘さずに彼れが没したと假定せよ。故設計家の心裡のみにあつた建物の構想を實體的に實現する様に丁度それに適當して諸材料を使用するの難事を解決し得る設計家及び建築家を見出すの問題に國民は當面

しなければならぬ。

初期社會科學者達は其れを全く右の如き方法で告白しなかつたが、社會學者を含めて、科學の高大な目的に就き少しでも攻究してた人達は、過去及び現在に涉り聚合された人間諸事件を吾々の比論に於ける建築材料の如き構成要素の集積の様に取扱つたのである。彼等の大部分は比論に於ける設計者の計畫に相同じと豫整された構成的計畫ある處の自然若しくは最高計畫者の或る概念を假定した。それで彼等は社會科學の仕事、殊に社會科學中彼等自身の研究部門の仕事は、人間の出現以來現在に到る迄、人類の行程を埋めた凡ての雜多な事件を、計畫的結合の中に、組織するにあると考へた。その計畫的結合の中に、各事件は適當の位置を占む可く又た各事件相互間の關係が明白になるだらうと考へた。社會科學にある又た有り得る又た社會科學として是非あらねばならぬ事に關して代りかゝつての見解を比較研究によつて、出来るだけ明確

にせんが爲め、先の概念を出来るだけ明確にするのは好ましい事である。

科學的可能性の此の概念が支持されて居なかつたなら、社會學は其れが発生した時に生れず又た其の初期歴史は其れが示す如きものでなかつたらうと云ふ事は淡白に是認されるだらう。二三の人達を其の概念を實現すべく計畫を敢行する様に刺戟した。彼等の先人は其の概念を實現すべく寂しく失敗し終つたのである。同時に吾々は、此の點に於て社會科學者達は、凡ての古い型(この社會科學者達を幾度も吊り出した處の妄想を試験して居た事の眞理なるを主張せざるを得ぬ。

(一)他のものの批評は同時に懺悔である。此點に於て數年間私は違犯者の一人、否罪深い違犯者の一人であつた。

少し後で述べるが、最近半世紀間の客觀的歴史家の顯著な自覺的努力の一つは、歴史的思想家の調査態度よりも寧ろ思索態度所謂歴史哲學者と同一視される疑念に就き彼等の陳述確證にあつた。同様な筋道で今日の社會學

者達は、彼等及び彼等の直前の先進者達が厚顔にも一世代前に知らせて居た處の、即ち先に述べた建築學の組織上の概念を、多少意識的及び明確に拒否しつつある。各事件が人類經驗の長さで深さに於て凡ての他の事件に關

聯して居る處の其等の作用的諸部分の完全なそして包括的組織として人間の心で示されるには、人類經驗の總體は餘りに尨大餘りに踏査し難いものである。其の考は不可能として拋棄されねばならぬ。例へば現存の一人の人も、數代の長きに渉る記録を保藏する王家の一員も人類種族の初期に吾々を分離した大昔より尙ほ更に後に歸へつて彼れの祖先を辿る事は出來ない。原始的人間集團から現在地球上に馴致された文化的の各々のものに到る進化の眞實連環を形成した處の物的及び心的及び道德の精細にして完全な先件及び後件を辿る事は如何にも思惟し難き程の困難である。現在にての吾々の理想は人類集團(二)に於ける先件と後件の原因と結果の調和と不調和の安

定と不安定の建設と破壊の典型的な質的關係の發見にある。

(1) Small, *General Sociology*, 三六、七章「社會的過程の諸

事件及 Ross, *Social Control and Principles of Sociology*
參照

吾々は此の理想の應用に當り無數の差異あるを認める。夫れは例へば時間若しくは空間に於ける遠近に依存するもの、若しくは直接論點に於ける集團の單複に依存するもの、如きである。制限内に質的のみならず量的の集團内に於ける反動的智識が獲られる事も吾々は信ずる。人々が世代から世代へど、人間諸能力の進歩の利益を受く可く、彼等の状態を管理する事に慣れて居り、又たその能力を供へるに到つてもかも知れぬ事を、及び人類の状態の質量的智識の集積に便利な方法の進歩的使用と共に、上の如き能力の働きの將來も然るべき事を吾々は信ずる。近年一般の社會科學及び特殊方面の社會學の發達は此の觀念の眞なるを立證するものである。此の行程の

現在及び將來は一般に於ける社會科學及び特殊部門の社會學をして此の觀念の傘下に聚合し且つ此の觀念に従つて行爲する精神的過程として導くにある。

社會學理論上の最近の名著の一は、本標題の解明顯著なクローレーの「社會的過程」である。卷尾近き一節(四〇二頁―四頁)は此の點に觸れて居る。該節では良く調整された中庸の期待を持つた建設的精神が顯著である。此等の點から見て、二三十年前の血氣盛にして正當を缺く期待と對立的に其れは今日の思慮ある社會學者達の性質を表はすものである。

社會改良の方策は多分實驗を経ればならぬのである。併し社會學は或る方法で其實驗をより聰明になす一方法である。社會階級學說即ち階級の構成及び其の持續、階級に屬した人達の心の形象化の歸結と云ふ様な諸種類のものゝ、又た其等の問題に觸れて記載されて居る事柄を觀察し反省して研究する人達は、其の時代の狀態が彼に判然となり且つ諸事件の趨勢把握が容易にされる事が判ると私は考へる。

吾々は何處にあつて、何が行はれてると云ふ事を觀察と思案によつて歸納し了解するのである。これが「社會學の原則」

である。其等の原則は經濟學の原則と性質は同じである。後者が事業界若しくは財政の洞察に資する如く前者は吾々の社會的洞察を助ける。彼等は既成解答でなく、啓蒙と豫想を供する。勝れた社會學者も博愛若しくは社會的立法に關し充分處置し切らぬ事は、有名な經濟學者が彼の金の投資に就き拙い判断をなすが如きである。然かも、他の事情が同一なら其の主題の學說に訓練ある人は無き人に、其の實際的智識に於て勝るのである。

根本的に或る科學とは生物學者が今日遺傳の一般的事實を研究して居る如く、普遍的であるものを撰び、廣く得られた事實に就き熱烈な研究を致し以て透徹的理解をなすにある。吾々が夫等の一般的事實を知つて居る事は、吾々が複雑な人生に於て聴く働き得る様最善の準備がなされて居る譯である。地圖の上に主要作戦が示されて惑はしい些事は省略されて居る其地圖によつて、將軍が戰鬪行程を進める事が出来る様に、吾々の研究は主潮を明かにして運動を單純化し乍ら複雑な外觀の下に於ける人間性及び社會過程の諸原理の持續的作用を吾々に識別せしむるにある。是は日常生活の管理を保證する譯ではないが、成功の好機を掴む手段を工夫せしめ得るものである。其手段が失敗する丈け何が悪くそして次回には如何に良く爲すかと判る地位に吾々はあるのだ。社會科學の最高目的は、常識的觀察でなされる以上に人生劇を了得するにある。是れはシエクスペア、ゲーテ若しくはバルザックと云ふ如き藝術家の仕事なりと反論されるなら、

私は夫れに答へて、左様に廣大な計畫は藝術家、科學者、哲學者及び實際家の多様な綜合的知力の協力を要するのだと云はう。否は私に科學の建設的本質は實に藝術と云ふ態様であると云はう。實際吾々の研究が期待される可き一つの良事は若し人生に理想的單一と美が見られるなら、人生を偏見なき自若たる精神で考へる力がある事である。

吾々は此の挿入文を公式(一)で約言する。社會科學界に於ける智識の問題は次の如くなる。

(一)Encyc. Amer. 「社會學」の項、二〇八頁第一欄對照

「人類經驗の意義は何であるか又た吾々は其の意義を充分探求する爲め信賴するに足る技術をどの程度迄發達させたか。」人類經驗の信賴すべき解説が可能だと假定して、吾々の現在の質問は、一體としての社會科學は、解説の根柢ある方法を決定する點に關し、何をなしたかと云ふ事である。此の回答は同時にどの點に社會學が發足したかと云ふ問の答へにもなる。

斯様な設問は、傳統的に分離された諸社會科學の偏見を超越した水準に吾々を置くので

ある。續行される調査は優越的地位又は權威を主張する特殊社會科學にとつては味氣ないものだらう。若し吾々が其の究極に達した社會的意識の共受者ならば、社會科學の(その何れの部門なるにせよ)研究家としての根本的興味は人類經驗の意義を智得するにある。

社會科學の慣習的部門が此の意義の或る一面又は狀勢を確知する方法を見出したとすればそれは結構なものである。これまで到達された或る又は凡ての技術が説明し得なかつた人類經驗の或る部分をその儘にして置くなら、その範圍に於て其の傳統的説明を所持する左様な技術は經驗に關して望まじき全説明をなすものに對し僅かの貢獻をなしてゐるもので主要問題に光明を投じ以て其れが役立つた割合に對してのみ吾々はそれに敬意を拂ふのである。斯く理解して初めて十九世紀に於ける諸社會科學は人間經驗解説の信賴するに足る方法發見に就き、如何なる事を爲したかと云ふ問題の眞摯な研究をなす用意が出来て居る。

此の問題が充分回答されるには、必然的に英のロック、佛のデカルト、獨のウォルフ達以來の哲學及び心理學の進化が取扱はれねばならぬ。吾々の限界では餘儀なく此の調査を

省略する事にする。序に引用するが、近代哲學及び心理學の一結論は、詳細に涉つては差異あるも、研究の二態様は凡ての實證科學と共通基礎を見出したと云ふ事即ち「立派な哲學及び心理學はそれが思索的たるよりも本質的に實證的若しくは歸納的たらねばならぬ」と云ふ主要な言葉である。此の結論を悉皆科學を包括する様な一般的形式で云へば「經驗の論服し得る説明の凡ては諸經驗の歸納であらねばならぬ。(一) 最初の場合に於ては少くとも夫れは演繹でなく歸納たらねばならぬ。釋明さる可き諸經驗の各部分が彼等の啓示的意義を示す處の各部分間の關係を調査する事によつて解説の組織が建設されねばならぬ。經驗したる諸事件の價値を評價する一定子午線として務むるに充分な外部的基線を経験外に

見付ける事は出来ないのである。此の原則は神學者及び其の追隨者達から固く驕傲に攻撃された。

(1) Lange. Amer. 對照

此の哲學者及び心理學者の基礎的斷案は、其の他の現存の諸科學も強調するだらう處の一大真理の第一級の解明である。哲學者及び心理學者の此の斷定は哲學者及び心理學者の腦裏に密閉されて居たのではなかつた。それは哲學者及び心理學者にのみ判る符牒的言葉で書かれたのでなかつた。寧ろそれは哲學者及び心理學者達の思想の中に推察が附いた位の形になり出すと直ちに、他の思想家達に流布されて居た。實際此の斷案は其の部門の人達の思想に於て、真先に到達されて居たか若しくは其れは先づ其の部門内に於て優勢になつたと云ふ事ではない。確かに十九世紀後半に於ては、科學の主要部門の大概のものは、其れを相互に致々として印象し合つて居た。それは一般に思想の漸増的獲得の職分を

なすに到つた。大抵教育ある人達の大部分は彼等の教育によつて、殆んど凡て自然科學に歸納的思索の必要なる事を信する様に傾かされた。是れは委任されなかつた印象である。自然科學及び其の他の科學は先驗的思索と歸納的思索とに對し如何なる信用を拂ふべきかに就き何人と雖も精確に回答する事は出来ない。如何なる時に於てせよ、哲學者も心理學者も、次の結論に達し得ると信せられる材料を省略する事は出来ない。而してその結論とは如何なる範圍に於ていも、眞實の智識は精確に調査された多くの事實から及び概括された彼等の普通の内容から派生されねばならぬと云ふ事である。併しこれは茲に繰り返して云はれても良い事である。研究の或る部門に於ける學者達―例へば哲學者及び心理學者達―が彼等自身の思索に於ける此結論に新價值を附與するや、其の問題上の彼等の判断は、他の部門に於ける思索家をして同問題に關し彼等自身の判断を修正するか若しくは再肯定か

する様に刺戟するに到つたのである。凡ての其の他の結論に就ても同様であつた。後述せるが是れは自然科學に於けるが如く社會科學に於ても眞理であつた。又た其れは社會科學の各部門間に於けると同様彼等と自然科學間に於ても眞理であつた。

智識の基本的形態に就ての概括的論及に關して吾々は社會的解説のもつと具體的形態から初める事とする。現在の計畫は一八〇〇年以來人類經驗を説明せんと企て、居た獨逸のものを注意の焦點とする。吾々は社會學に對する準備の主要手掛りとして、獨逸の社會的自覺の進化中の或る最も意義ある變化を用ふる事とする。一般に歐洲の社會的自覺進化の獨逸の要素が選らばれるのは、獨逸の經驗したるものが無類の價值を有したからでなく、此の經驗の連鎖が他の何國よりも獨逸に於てが容易に辿り得るからである。

私の見地から社會科學の進化を考察する人達には一九一四年以前に論證の爲め必要とさ

れて居たものよりも重い負擔が掛つて居る事を私は知つて居る。其の階級内に著名な獨逸社會科學者達を包含して居る一階級としての獨逸學者達は、戰時中の彼等の態度に於て、望的に彼等自身を汚したと云ふ事を、如何なる米國人も考へずしては、獨逸學問を知らない。獨逸學問に良いものが有り得ると認めるのは、科學並に國家の大反逆者である。長い間米人に見える事と私は思ふのである。

此の件に對する私の態度は簡明直截に述べらる事が出来る。而して私は其れに就き論證したい。戰爭中の獨逸學者の態度に對して（彼等の中には私の親友達も居るが）米人の中でも私程に失望と嫌惡を催した者又催して居る者はあるまい。彼等の行爲は屈辱だつたと思ふ軍閥、官僚以外の獨逸智識階級市民と共に獨逸の學者達は、政府の政策に反對し得なかつた失敗を、米人は寛恕しなかつたが、尙ほそれを緩和する事情も存して居た。併し夫れは私が算へ立てる必要なく、且つ部分的には説

明したものである。大統領ウイルソンが胸中抱いてた主張は、吾々が戰ふは獨逸國民にあらずして、獨逸政府なりと云ふのであつた。凡ての獨逸市民を同様に動かした凡ての事情を斟酌するも、私は一般に非戰論を殊にその特殊戰爭及び獨逸式戰法反對を固執しなかつた彼等の失敗に就ては、下層階級よりも獨逸社會科學者達は詫び方が足りないと言張する人達に同意する。私は斯かる危機に際しての政治的正義に對し所謂社會科學の或る種ものが無力であると判つたら、それは哀れな無用の長物だと云ふ事に一致する。

然し吾々が彼等の政治的方面よりも寧ろ心理的に事實を分解する時、私に迫る結論は、最初彼等の政治的關係の事實を思考した時私が出した判断の如く罪有りとするのでないが全く矯正すべきものがある。後で詳論する様に獨逸社會科學者達の大方は實際政策には密接な關係があつたに拘はらず、先般の戰爭中の獨逸教授達の行爲は、歴史が學界の凡ての

科學を實際的應用から分離した事と、且つ社會科學部類内の優秀な智識と老練とが社會的時事問題を取扱ふのに確かな常識を保證するのが不確實だと云ふ事を演じた處の驚くべき顯現だと考へる。

換言すれば戰時中に於て獨逸科學が政治的正義の若しくは先見の明ある政治的方便の指導者として挫折したのは、智的訓練の爲めの代表的思想が虚偽だつた事を廣く示したものである。古典學者の説は、彼等の代表的先入見を駁論するものと衝突した。此の代表的先入見とは、古典的研究を良くやると、完成されるべき科目が何にせよ、或る智的階梯に對しては心が他の如何なる方法よりもより良き準備がなされて居ると云ふのである。殆んど二三の勢力ある古典學者は次の如き主張は無稽だとした。その主張とは、學究間の現在の方向は極端に走るにある。而して一定行績の完成をなす唯一の精神的訓練は其の特殊業績に關して不斷の實行をなすにありと主張するも

のである。絶對的善と云ふのは有り得ないのである。

此の一般問題に就き如何なるものが眞理たらうとも、社會科學の獨逸教授達の場合では彼等の社會科學型は、戰爭が提供した社會的危機の場合には良く働く資格がなかつた事を充分に證明する。

獨逸以外の社會科學者達が、獨逸の社會科學者達と正しく同一環境に置かれたとして、爲し得べきものよりも、獨逸社會科學者達は精神作用に於て強剛であり而して拙らぬと云ふ理由なき結論に吾々が飛び込む前に、兎に角吾々の推理的器械に挺を置くべきである。大戦中獨逸社會科學者達の中に、充分な政治的光明と指導力が無かつたから、社會科學は開拓する價値なしと推斷してはならぬ。最終的斷罪的斷定でなく、諸事實から引かれる異つたとして其調和をなす推定がある。即ち社會科學が現在發達されて居る範圍では、それは精々未發育の幼兒であると云ふ事である。

獨逸人には恐らく他國の學者の如く社會科學の多くの乳齒が生へたが智慧が出て來るのは未だ仲々の事である。

喩を引く迄もなく、獨逸戰爭が世界の全社會科學者になす最も顯著な教訓は、社會的計畫に對する權威ある根據としての現在の社會科學の價值評價に就ては謙遜すべしと云ふ事である。吾々は獨逸の例より、社會科學が社會的緩急の際豫言者として其の代表的信頼を確保し得るには、社會科學は今其れが管理してゐる以上の多くの智識を得ねばならぬ事を注意せねばならぬ。

訓練と生活との間にはいつしか或る必然的關係が生ずる。學究の貧弱な仕事も學校外の似寄つた行爲に對する準備として或る程度の從的價值を持つに到る。學究的思想家は世界的最良の行政官たり得ないが、學究的思想家の充分な供給があるから、世界には常に優良行政官が存する譯である。ウイルソンの極度の崇拜家も、大統領ウイルソンは思想家とし

ても政治家としても誤謬はなかつたとは云へまい。だが、彼れの死後、彼れの敵も彼れの學究的思想が米國及び世界の道德的水準を高めると立證した一つの力を、北米及び世界政治界に投じた事を是認するだらう。

私は獨逸社會科學者達に對しても、彼等は思想家として、果た彼等の思想の實際運用家として、彼等は誤謬なきにしもあらずと云ふのである。此れに關して彼等は凡ての國の社會科學者の典型的なものである。獨逸社會科學者達は獨逸化學者、獨逸生物學者、獨逸言語學者の如く、これからの仕事の爲めに彼等の仕事とその意義を思かにも無視する様な仕方では、彼等の部門の開拓地で働いて居た。獨逸人がなした社會科學上の方法に關する最初の仕事は、調査の餘地が充分にある。而して社會學の分科に就ての獨逸の關係は、何國の社會學の來歴よりも判り易いのである。私が獨逸社會科學に就て考へる時の用語の裏には獨逸最良の意味がある譯でない。私は一伊太利

人が無線電信を發明し、一和蘭人が國際法の基礎を作つた事實と同様に、國家的なもので拘束されない事實を取扱つてるに過ぎない。

嚴格に論理的に云へば、近代獨逸社會學說の進化に於て到達された結論として、人類經驗に關する獨逸の見解、若しくは人類經驗解說到必要な諸過程に關する獨逸の見解は、最終のものであると云ふ證明をしなかつたのである。一般に人類運命の説明を企てた獨逸の經驗は、此の一般問題に於ける多くの民族的試驗の中の一つである。彼等が今日遭遇した様に(例へば一九一四年八月一日の如く)獨逸の解説は種々の點に於て焦點を失ひ易いのである。社會科學の現状では、兎に角一九一四年迄の獨逸社會科學の進歩が、世界に於ける同時代の思想を構成して居た解説の重要な確證とその供給を充たして居たのである。即ち吾々が全一體としての獨逸社會科學を通覽する時、一九世紀初頭より二十世紀初頭にかけて之を云へば、獨逸思想の傾向と歸結には、

一方の社會關係の特徴的近代的概念と、他方の社會的解説の必然的傾向に就ての最終の結論との驚く可き一致があつた。

殊に獨逸の經驗は「正當の社會科學は多元では有り得ない。一元でなければならぬ」と云ふ社會學の根本命題に關する科學的文獻の中で最も演劇的説明を供したのである。一八〇〇年以來獨逸では社會科學の分離的な名稱部門が他の何國よりも、明白に一科學の部屬内にあつた。此の響の様に簡單にその命題は平凡なものではなかつた。此の完成に到達するには數世紀の間官滅法に搜し廻る事を要した。此の命題が二三の人が了得して居る様には、今日多數の學者は其の中に意義を見出せない。尙ほ二三の人達は妬んで之を拒否さへして居る。過去の諸社會科學と未來の社會科學との識別の手掛りは此の簡單な公式の中に宿されて居る。

其の公式は次の如く展開される。大戰の眞相を―其原因、從屬事件、結果を―食物獲得動

物としてのみ人間を考ふる言葉で報告する様
試みる事にする。若し食物消費と云ふ事が包
含された唯一の利害であつたなら、人口稠密
の國は匈牙利や露西亞に向ひ、而して彼等の
未開地耕作に力を藉し、以て供給し得なかつ
た食物を歐洲は容易に得られると云ふ明白な
考をなして斯かる無益な冒險事業は抛鄭され
たうらう。それに代つて射利的動物としての
み人間を考へる言葉で原因から結果に到る迄
の戰爭の全體を報告すると假定せよ。尙ほそ
れは各個人に對する富の最大量生産問題を解
決するものとしては、戰爭は狂ぢみたものだ
つたと數字的に示すのも容易な事である。生
産の爲めには、破壊を排除し其力的なより高
級なものがあるだらう。政治的野心、若しく
は智的競争、若しくは審美的趣味若しくは道
德的有罪の動物だとしてのみ人間を考へる言
葉で戰爭を報告せしめて見よ。是等の企ての
各は直ちに不完全である事を證明する。何せ
かと云へば是等の假定の何れでもが現實に應

じたものであつたら、戰爭をなした人達は、
諸假定が推理した様な人達ではなかつたのだ
から、其の假定は成り立ち難くなる。眞實戰
争をなした人達は、混淆した動機から鼓舞さ
れた人達である。此の行爲の科學的叙述たり
得るものは、その説明中、次の事の信賴すべ
き報告を齎さねばならない。次の事とは各要
素的諸動機が戰爭發生の諸條件を誘導し且つ
戰爭を特徴づけた正確な具體的行動を刺戟し
たと云ふ事である。換言すれば戰爭の原因、
從屬事件、及び結果に就ての科學的叙述には
何は措いても、客觀的及び主觀的の現存世代
の環境を構成して居る凡ての自然現象及び凡
ての後天的個人的特性及び社會的諸制度に反
應して居る凡ての歐洲民衆の全人間性の包括
的叙述が有らねばならぬ。人類のより綜合的
な科學に於ては尙ほ然りである。夫れは人類
が諸事物を欲求し、且つ彼等の展開する欲求
を満足する爲めの努力行程に於て、より人爲
的計畫を展開せしむる處のその人類に關して

の包括的科學であらねばならぬ。

換言すれば、人間經驗解説の吾々の計畫の正味の成果は、此處まで、は二三の概括に摘出され得るだらう。是等の中社會的攻究の近き將來の指導の爲めに最も意義あるもの、一は先の公式を少し變へた「人類經驗の最終解説は經驗からの抽象中に見出さる可きでなく、全經驗省察に於て諸抽象の構成中に見出さる可きである。」と云ふ事である。

最後に一言したいのは、人間事件に就ての全思索の未熟に就てゝある。殊に一八〇〇年直前の世代に就てゝある。現在では、豫備試験をやらなかつた社會科學の非批評的傳統中に形成されて居たものに對し、吾々は最初の顯著な打破をなした。吾々は先づ「歴史的精神の覺醒」を常態に置かねばならぬ。此の要素は即ち術語的熟語が用ひられる様に(一)「批評的」歴史的精神若しくは「歴史的批評主義」の進化の熟語で正確に示し得る。

(1)Encyc. Amer., loc. cit. 6版11〇九頁第一欄對照。

本館報告

研究館彙報 前號發表以後發行

せるもの、目次左の如し

第三卷第一號 (大正十二年十一月發行)

米國に於ける會計士の出現に就て 教授 飯田靜次郎
改造の原理と婦人の職分(三) 教授 田崎仁義

礪山の評價に就て 助教授 山本恭次郎

第三卷第二號 (特別倍大號) (大正十二年十二月發行)

歐米所觀雜感(一) 教授 川口西三

米國に於ける會計士の出現に就て(二) 教授 飯田靜次郎

研究館事業一般

本校教官著作論文目錄

第三卷第三號 (大正十三年一月發行)

歐米所感雜感(二) 教授 川口西三

Utilityの倫理的意義 教授 岸 興 詳

延命長壽の慾望と神仙不死 教授 田崎 仁 義

第三卷第四號 (大正十三年二月發行)

歐米所觀雜感(三) 教授 川口西三

英國財界の趨勢と其對外關係(三) 卒業生 向井 忠

第三卷第五號 (大正十三年四月發行)

英國銀行準備金問題(二) 教授 青地玄三郎

歐米所觀雜感(四) 教授 川口 酉三

英國財界の趨勢と其對外關係(二) 卒業生 向井 忠

倫敦だより 助教授 伊藤 久秋

第三卷第六號 (大正十三年五月發行)

大哲カントについて(一) 教授 岸 興 詳

歐米所觀雜感(五) 教授 川口 酉三

英國財界の趨勢と其對外關係(三) 卒業生 向井 忠

古事記本文(二)

「研究館年報」商業、經濟

前號(第四年第二冊)目次(大正十二年十二月發行)

論 說 研 究

畜生道論 教授 田崎 仁 義

インフレーション乎デフレーション乎 教授 川口 酉三

減價計算に就て 助教授 山本 恭次郎

アダム・スミスの生涯と其の著述 教授 武藤 長 藏

支那關稅の過去及び將來に就て 教授 下田 禮 佐

減價償却問題 教授 飯田 靜次郎

資 料

道德に於ける自律性と法則性 教授 岸 興 詳

ジョン・ステュアルト・ミル略年譜 教授 武藤 長 藏

雜 錄

Originality in Business Correspondence

Lecturer, Sukekawa Torii.

「研究館夜學講習」

夜學講習は益々盛

にして既に十三回三十六科目を講習し、講習

修了者延人員壹千三百名を越え講習卒業者六

名を出せり。前號所載以後開催せる講習内容

は次の如し。 冬期講習(大正十三年一月二十四日より五週間)

海上保險論(十回講了)

教授 今 村 有

第一章 海上保險契約

一 海上保險契約の意義

二 海上保險契約の性質

三 海上保險契約の締結

第二章 海上保險証券

一 海上保險証券の意義及性質

二 海上保險証券の形式

三 海上保險証券の種類

四 海上保險証券約款

五 海上保險證券の解釋

第三章 被保險利益

一 總 說

二 物權關係

三 債權關係

四 期待關係

第四章 保險の目的

一 船 舶

二 積 荷

三 運 賃

四 希望利益

五 冒險貸付金及利息

六 給 料

七 航海準備金

八 共同海損債權

九 海上に於ける各種の義務及責任

第五章 保險價格

一 評價未済保險の保險價格

二 評價済保險の保險價格

第六章 海上危険

一 暴風雨

二 沈没又は破船

三 坐礁膠破及觸礁

四 衝 突

五 火災及爆發

六 惡 行

七 投 荷

八 船舶船長航路及航海の變更

九 海賊及強窃盜

十 戰 争

第七章 保險期間

一 保險期間

二 航海保險

三 混合保險

第八章 海上損害

一 總說(費用)

二 全 損

三 分 損

第九章 保險者責任の範圍

一 直接損害論

二 最小責任額

三 W.A.

四 F.P.A.

五 T.L.O.

第十章 委 付

一 委付の意義

二 委付をなし得べき場合

三 委付の效果

第十一章 代 立

第十二章 損害の査定及保険金支拂

- 一 積 荷
- 二 船 舶
- 三 運 賃
- 四 保険金支拂手續

商品學(十回講了)

教授 淺野金兵衛

- 一 本邦化學工業に及せる世界大戰の影響
- 二 戦後發達せる主要化學工業及製品
- 一 窒素固定工業
- 二 油脂硬化工業
- 三 電気化學工業
- 四 曹達工業
- 五 染料工業
- 六 グリセリン工業
- 七 人造絹糸工業
- 三 本邦化學工業の將來

平時國際公法(前半十回講義)

教授 阿 部 三 四

第一編 緒 論

第一章 國際公法の性質

本館報告

第二章 國際公法の淵源

第二編 國際公法の主體

- 第一章 總 論
- 第二章 國 家
- 第三章 國家の成立及滅亡
- 第三編 國家の基本權

第一章 總 論

第二章 獨立權

第三章 自衛權

第四章 平等權

第五章 交通權

春期講習(大正十三年四月二十八日より開講)

英語(十回講了)

教授 青 木 道

Selections from Great Authors.

- 1. The Legend of Sleepy Hollow. W. Irving.
- 2. A Dissertation upon Roast Pig. C. Lamb.
- 3. A Bachelor's Complaint of the Behaviour of Married People. C. Lamb.
- 4. The Gift of the Magi. O. Henry.
- 5. Springtime a la Carte. O. Henry.
- 6. On being Hard up. J. K. Jerome.
- 7. On being in the Blues. J. K. Jerome.

8. An Imaginative Woman. T. Hardy.

平時國際公法(後半十回講了)

教授 阿部三四

第四編 國際法の客體

第一章 國家の領土

第二章 公海

第三章 個人

第五編 國際交通機關

第一章 概論

第二章 國家の元首

第三章 外務大臣

第四章 外交使節

第五章 領事

第六章 在外軍隊及軍艦

第六編 國際條約

第一章 概論

第二章 條約の意義及性質

第三章 條約の成立

第四章 條約の效力

第五章 條約の解釋

第六章 條約の消滅

第七章 最惠國條款

第七編 國際紛爭解決方法

第一章 概論

第二章 國際紛爭平和的處理方法

第三章 國際紛爭強制的處理方法

第四章 國際聯盟

哲學概論(十回講了)

教授 岸 興 詳

序論 哲學概論の意味と方法

第一章 哲學の本質

第一 哲學の定義

第二 哲學と科學

第三 哲學と宗教

第四 哲學と藝術

第五 根本的規範學

第六 哲學の分類

第二章 認識論

第一 認識論の問題及分類

第二 獨斷論の實在論

第三 獨斷論の唯心論

第四 批評論

第三章 形而上學

第一 形而上學の問題

第二 唯物論

第三 唯心論

第四 二元論

□田崎教授學位受領 本館主任田崎教

授は多年研鑽の結果になれる論文を東京商科大學に提出中の處去る二月十八日の教授會に於て通過し三月廿二日附を以て經濟學博士の學位を授與せられたり。論文の内容は次の如し

支那古代に於ける土地及び農業に關する思想上の特質と是に基く封建組織及び土地制度の研究

第一部 思想

第一編 廣く世界古今の原始諸民族間に土地及び農業を女性に配同象徴する思想あること並びに其の經濟史的基礎を論ず

第二編 支那古代に土地及び農業を女性又は陰性に配同象徴する思想ありしことを論ず

第二部 組織及制度

第一編 封建制度の發生期

第二編 禮記王制に現れたる封建の概略

第三編 周禮及び其封建組織

第四編 周禮に現れたる土地制度(以上)

附錄 參考論文

古代支那に於ける國家社會法制經濟の根本基礎としての王道天下に關する若干の研究

本館報告

第一部 思想

第一編 洪範に現れたる天下觀念

第二部 組織及制度

第二編 氏及び姓の研究

第三編 王道的君位の研究

第四編 禹貢論

第五編 王道文化と官制の變遷(支那古代の官制史論)

(以上)

田崎教授學位受領祝賀式 本校學生主

催にて去る五月一日田崎教授の名譽を祝する爲本校校堂に於て祝賀式を開催せられたり、木村校長開會の辭を兼ねて祝辭を述べ、學生總代山東茂一郎君は「經濟學者として最高學位を得られた田崎先生の名譽を祝賀する爲に吾々學生一同は茲に祝賀式を催したのである」と頌徳の辭を述べそれより桑原陽次郎君總代として花環に記念品目錄を添へ同先生に贈呈し、次に田崎教授は謝辭を述べて、支那古代史研究の動機等を説きて記念講演に移り斯學研究上の一方法として「文字の起源」に就き講演ありたり。

□學位論文審査要旨 右田崎教授商大

へ提出の論文に對し、審査員(福田、三浦、高田三博士なりしと聞く)より同學教授會へ報告せられる審査要旨は次の如し。

學位論文審査要旨

『支那古代に於ける土地及農業に關する思想上の特質』
 是に基く封建組織及土地制度の研究』

提出者 新潟縣平民 田崎 仁義

本論文は、社會學及人種學最近研究の結果に立脚して、古代支那の經濟思想及制度を、其の最も特色ある方面に就て研究考察せんとするものにして、ハーン、ヘーン、シュルツ、シュラーダー、ルートルノー、フェヒヤ等歐洲諸學者が、歐洲其の他の諸民族に就て成したる諸研究、就中エドワード・ハーンが『經濟的勞働の起源』『鋤耕の起源』等の著書に於いて、カール・フェヒヤが『國民經濟の成立』に於いて試みたる研究と、粗ぼ同趣の考察を古代支那の思想と制度とに就いて企てたるものなり。

著者は全論文を二部に分ち、第一部に於いては、思想の研究を試み、第二部に於いては、組織及制度を論述し、二部を通じて古代支那に於いては、土地及農業を女性、陰性と觀念したることを證明することを主眼としたり。第一部第一編に於いて、先づ原始諸民族の神話及傳説中、地母、穀母に關す

るもの甚だ多きを論じ、進んで、實際經濟生活の上に於て植物性生活資料採取の業は、主として女子の掌る所にして、農業の起源は女子先づ之を開き、長期間其の專業たりし事實を列擧し、思想上にも制度上にも顯著なる特色が、此事實より生ずるものなるを述べ、第二編に入りて、考察を古代支那に進め、思想上、土地及農業を女性即ち陰性に配せしことを詳述し、地皇及神農は女性として象徴せられたること考證し更に、土神たる『社』穀神たる『稷』が、共に陰性の方角たる北方に祀られ、其祭壇も亦陰性を象徴する方形に造られたることを擧げ、易の天陽、地陰、乾父、坤母の觀念に於いて堯典以下周禮に至る諸禮制に於いて、共に、土地及農業を陰性に配したることを示し、古代支那の思想は、土地と其の耕作とを、女性的のものと認めたることを證明して、首肯に値する結論を下すこと鮮からず。

第二部は、此の思想的特質が、如何に實際生活の組織と制度の上に顯はる、かを考究するものにして、其の第一編は、封建制度發生期に於ける社會狀態を論じ、元后と群后との別より進んで、帝王と諸侯との關係に及び、第二編は、禮記王制に現れたる封建と其の土地制度、第三編は、周禮の封建組織、第四編は、周禮に示されたる土地制度を考察したり。猶著者は、別に考論論文として、王道天下に關する研究を載せたる五編を添附したり。其内容は、本論文の題目と直接に關連せざるものをも含むと雖も、大部分は、本論文の補遺若くは旁證として、參照に値するものとす。

今本論文を、古代支那の經濟史的研究として見るときは、
字典と認むべき點若干あり。第一、材料の取捨必ずしも適切
ならず、殊に史的研究に甚だ緊要なる史料の根本的吟味に於
いて、遺憾の點少しと爲さず。周禮、尙書、禮記王制の本文批
評には、著者は多大の力を傾注して、頗る傾軋に値する論述
を爲したりと雖も、其の批評の主題たる右諸書の史的價値を
重要視するに過ぎ、古來幾多の學者が、此等の書に對し提出
したる根本的疑問を輕視し、且つ右諸書以外に涉る旁證、例
せば、左傳、國語其の他諸子に就ての考證に於いて、未だ及
ばざる處あり、言語學的考察も支那學者一流の説文解釋に囚
はるゝ、觀あり。第二、書冊の記述が、那邊まで、實際上の事
實と一致するやを窮むること粗に過ぎ、文獻過重の弊に陥れ
りとの評を免れ難きは、史的研究として遺憾とせざるを得
ず、又社會、經濟史一般研究の立場より見るときは、著者が
比較類推の方法を採用したるは、甚だ嘉すべき處なれども、
比較材料の選擇一部に限られ、ウエプスター、フレイザー等
の英米學者に偏して、却つて著者と同一立脚地に立つ獨佛諸
學者殊にハーン等の研究を殆んど參酌する所なく、社會學の
上に於いては、デュルケム其の他の新業績を利用すること
尠きが如きは廣汎なる比較的研究としては、用意を欠くもの
と云はざるを得ず。第三、本論文の第一部と第二部との連絡
十分ならず、第一部に於いて、天父地母の觀念を論述して、
土地及農業を女性的なりとしたるは、甚だ有益なる業績にし
て、而して著者自ら此點を主題としたるに拘らず、第二部に

至りて、實際の制度及組織上に、其の觀念の顯はれたること
を證明すること周到ならず、如何にして、兩者が互に連絡を
有するものなりや、著者の述ぶる所にては、未だ隔靴搔痒の
恨なきにあらず、從つて本論文は首尾の一貫を缺き、其の研
究は未完結の狀にあるの感を與ふるを免れざる等、其の缺典
の重なるものなり。

然れども、歐洲に於ける此種研究に就いて、之れを見るも
ルトトルノー、ブエヒヤ、シユラーダー、ハーン、ヘーン、シユ
ルツ等の業績何れも未完未成の評を辭すること能はず、又た
言語學、人種學、考古學、社會學等の専門學者は右諸氏の研
究を目して、考證不充分なり論斷偏頗なりとするもの尠から
ず。然るに、今、此種問題に就いて前人の業績の取りて參照
す可きもの皆無にして、殆んど無人の荒野たるの感ある古代
支那に就いて、荆棘を拓きたる本著者の研究が、右諸學者等
の受けたる全様若くは、其以上の非難を辭することを得ざ
るは、寧ろ當然の事に屬すこと云ふべく、單に此の一事を以て
遽かに本論文の學術的價値を輕視すべきにあらず。著者は、
其の力の及ぶ限り、汎く幾百の典籍を涉獵し、本邦學者の關
係述作は、殆ど其一を洩らすことなく取つて以て、考證論究
の對照とし、絶倫の精力と拔群の勉強を以て、洵汝商量是
れ始め、其の結果は彪然たる浩瀚なる論文となれるもの
にして、其の篤學精勵は、人をして驚畏の念を起すを禁ぜざら
しむるものあり。畢竟するに、著者研究の規模甚だ大にして
殆んど一個學者の精力を超越するものあり、爲めに、以上列

舉したる缺陷を生ずるに至れるものと見るを得べし。而して著者の見識は尋常支那學者の囿陋に陥らず、邁往刻苦して、一個の新生面を開かんご努力したるは、本論文の隨所に歴然として、之れを見るを得べく、更に又著者が其の研究に對する態度は、極めて慎重且眞率にして、群書を讀破して眼孔紙背に徹せざれば已まざるの概あり。著者の此研究に従事する前後既に十數年に渉るも、未だ一日も怠ることなく、孜孜として、材料の検討、思索の鍊磨に従ひ、幾多の困難と闘ひて終ひに其研究に一段落を告げたるは、學問研究者としての用意に於いて甚だ推稱すべきものあることは、其所論の内容に賛同せざる者も猶且つ認むる所なるべし。

之を要するに、本論文は、比較經濟史の一述作として、斯學上に定論を立つるには、未だ推敲の餘地を残すこと疑を容れず。雖も、其の研究の規模並に用意の上に於いて其の業績の該博周到の點に於いて、斯學向後の進歩に貢獻する處鮮からず、其の學術的價值小ならざるものとす。仍て著者は經濟學博士の學位を受く可き學力を具備するものと認む。

□懸賞論文募集 去る四月八日附を以て

左記二種の懸賞論文を募集せり。

一、滿洲懸賞論文

- 金額 五拾圓(本校同窓會滿洲支部提供)
問題 南北滿洲及東部內蒙古の經濟社會又

- 易緯八種

- 一〇册 四册

は産業上に就てなせる學術上又は實
際上有益なる論說報告等

一、有終俱樂部懸賞論文

- 金額 五拾圓(有終俱樂部提供)
問題 長崎市(又は港灣)に關する商業經濟

社會等の諸問題の範圍内に於ける研
究調査にして學術上又は實際上有益
なる論說報告等

一、募集の切期日 本年十一月末日

一、應募者は本校生徒に限る。

□橋本、野上兩氏が本館へ寄附せられたる資
金によりて購入せる書籍左の如し。

橋本喜造氏の寄附金(本館建築費の殘額)にて
購入せるもの

九 通

二〇四册

股文存

一册

教政學

一册

最近列強經濟政策綜覽

一册

支那革命外史

一册

周易折中

一〇册

王制 一册
 說文解注 一六册
 水經注 一〇册
 泰山誌 一〇册
 人譜類記 四册
 吉永滙 一六册
 潛夫論 四册
 本草綱目 四〇册
 河洛精蘊 四册
 淮南子 六册
 道藏目錄詳注 二册
 北堂書鈔 二〇册
 Mythology of all Races. 六册
 Encyclopaedia of the Law of England. 一七册
 Dictionary Political Economy. 三册
 Egypt's Place in Universal History 五册
 Man Past and Present. 一册
 The Mythology of all Races. 一册
 Catalogue of Chinese book in the British Museum. 一册
 Chinese Recorder 卅三册
 Women under Polygamy. 一册
 Sex Mythology. 一册
 Royal Asiatic Society. 一册
 Asia Ethnological Appendix. 一册

本館報告

Social History of the American Family. 三册
 英和大辭典 三册
 模範新英和大辭典 二册

合計四百參拾四册

合計金八百九拾圓七拾四錢

野上良三氏の寄附金(壹千圓)によりて購入せるもの

制錢通考 一册
 揚子法言 三册
 太平御覽 一〇〇册
 周禮正義 二四册
 陔餘叢考 一六册
 八旗滿洲氏族通譜 一六册
 泉布志 三三册
 Golden Dough 一一册
 Religious System of China. 六册
 Practical Coal-Mining. 六册
 Historical and Chronological Deduction of the Origin of Commerce. 二册
 Folk-Lore in the Old Testament. 三册
 Economic Journal. 二六册
 The Mythology of the Aryan Nations. 一册
 The Magical Origin of Kings. 一册

二九三

商業と經濟

二九四

Sino-Japanica.

一冊

電氣評論

京都帝大電氣工學教室

Medieval Researches.

二冊

電氣之友

同社

Confucius Sinamm Philosophus.

一冊

支那問題

同社

Origines De Deux Etablissements Francais.

一冊

朝鮮貿易月表

朝鮮總督府

Chou-King.

一冊

農商務省貿易通報

同省

Aji : King.

一冊

支那研究

大阪市役所商工課

合計貳百六拾六冊

合計金八百五拾五圓貳拾貳錢

寄贈圖書

天津商業會議所週報

同所

漢口日本商業會議所週報

同所

上海日本商業會議所週報

同所

哈爾濱日本商業會議所時報

同所

經濟週報

青島日本商業會議所

調查彙報

長春商業會議所

上海銀行週報

同所

經濟週報

大阪野村銀行調查部

內外情報

臺灣總督府

調查月報

大藏省理財局

財務協會雜誌

東京稅務監督局同會

讀書會

滿鐵同會

鐵路

同會



佛國に於ける取引所仲買人の建株取引

長崎稅關

獨占權と場外現物業に對する取締制度

上島益次郎氏

主要纖維工業品貿易の消長

農商務省商務局

統計上より觀たる長崎縣

長崎縣

Mexican Free Port.

同